

は し が き

本報告書は、平成 15 年度に当研究所において実施した「イラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策」研究会の研究成果を取りまとめたものです。

9.11 事件を契機として、プーチン外交は共通の敵の存在に対するという意味で米国主導の対テロリズムの動きに共同歩調を取り始めましたが、これをもってロシアが米国の安定的パートナーとなったとは断じ難く、これが 2003 年のイラク戦争をめぐってどのような変化をとげるのか、就中、ポスト 9.11 プロセスで中央アジアにおける米軍展開を認める等の動きを見せたプーチン外交がイラク戦争という事象により、どのような変化を見せるのかが、ロシア外交を見る際の新しい視点となりました。これを踏まえて本研究ではイラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策がどのような方向に向かって進んでいるのかにつき、調査研究を行いました。なお、この研究は別途、開催の「イラク戦争後のプーチン政権の対外政策全般」研究の姉妹編とも呼べるものであり、右研究報告書もあわせご供覧いただければ、より総合的な視点を得られると思います。

今回の研究会は中央アジアに造詣の深い岩下明裕・北海道大学スラブ研究センター教授を始めとして、ロシア及び CIS を長年にわたり様々な面からフォローしている方々が委員となっており、途中、3 回の研究会(各研究会では我が国の学会、経済界等、幅広い分野の方々が毎回 30 名近く集まり、非常に質の高い議論が行われました)と、委員によるロシア及び CIS 各国への出張の成果を踏まえてこの報告書を作成しました。

ここに表明されている見解は、すべて各執筆者のものであって、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本報告書の内容が、わが国におけるロシア研究の質的向上に資することを期待します。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力いただいた執筆者各位並びにその過程で御協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 16 年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所

理事長 佐藤 行雄

研究体制（敬称略）

主査	岩下 明裕	北大スラブ研究センター教授
委員	宮田 律	静岡県立大学国際関係学科助教授
	小泉 直美	防衛大学校国際関係学科助教授
	湯浅 剛	防衛研究所第2研究部研究員
委員兼幹事	笠井 達彦	日本国際問題研究所主任研究員
固定オブザーバー	清水 学	宇都宮大学国際学部教授
研究助手	白池 由美子	日本国際問題研究所研究助手